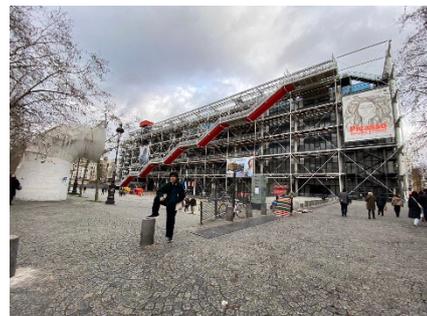


今月は憧れであったフランスの首都パリを訪れたので、芸術の街パリについて書いていこうと思う。

まずパリの魅力について書いていく。パリにはルーブル美術館をはじめオルセー美術館、オランジュリー美術館、近代美術館と多数の世界的有名な美術館がある。私としてはすべての美術館に訪れ、巨匠たちの傑作をこの肉眼に納めたかったものだが、さすがに時間が足りなかったようだ。今回私が訪れたのはルーブル美術館とオルセー美術館の二つの美術館だ。この二つの美術館に加え、近代美術館またの名をポンピドゥーセンターの三つの美術館を総称してパリ三大美術館と言ったりする。これら三つの美術館の名前は建築領域の授業を受講したことがある生徒であるならば一度は耳にしたことがあるだろう。かくいう私も建築領域の授業を受講していたのでこれらの美術館は聞き馴染みがあった。そのため三つすべての美術館を訪れたかったのだがここで不運が起こった。ポンピドゥーセンターを訪れる計画を立てていた日に近くでデモ活動が行われたようだ。ポンピドゥーセンターを訪れた際、「デモ活動により緊急で今日は閉鎖します」という張り紙だけがあった。閑散とした美術館前の広場、仕方がないので外観の写真だけ撮って別の場所へと向かうことにした。しかしルーブル美術館とオルセー美術館の二つに訪れることができただけでも幸せである。ずっと憧れであったルーブル美術館、『サ



モトラケのニケ』や『ミロのビーナス』といった有名彫刻に加え、『モナ・リザ』や『ナポレオンの戴冠』などの有名絵画、『ハンムラビ法典』など教科書の写真に載っている有名作品が多数保管されており、感無量であった。ただ午後にオルセー美術館のチケットを予約しており、約3時間でルーブル美術館という巨大な宮殿を駆け巡るといふ愚行を犯したのが少し後悔するところでもある。有名作品を横目に駆け足で通り過ぎていくのは本当に勿体ないのでもし今後ルーブル美術館を訪れるとい

う人がいるのなら一日はルーブル美術館のために空けておくことをおすすめする。それほどに巨大な美術館であるということだ。さすが世界最大級。目まぐるしくルーブル美術館を巡った後オルセー美術館を訪れた。オルセー美術館の後は予定が何もなかったので閉館時間になるまでゆっくり作品を見て回ることにした。オルセー美術館は駅を美術館に改装し



たものでこれもまた巨大な美術館である。モネ、ルノワールなどの印象派やミレー、ゴッホ、マネなど有名芸術家の絵画がこれまたずらっと並んでいる。個人的にはモネやルノワールなど印象派の絵が好きなのでオルセー美術館で実物を見られたことは人生最大の思い出と言っても過言ではないかもしれない。ちなみに美術館の入館料についてはフランス在住の学生であれば無料となるので、もし今後フランスに留学する生徒がいたら是非パリを訪れ世界的な美術館を堪能してほしい。

次にパリの街並みについて語る。パリの街並みは昔から変わっておらず日本でいう江戸時代、明治時代頃の建築物がそのまま残っているようなものだ。石造りの建築物が並び、まさに西洋だなという景観であった。また凱旋門を中心に放射状に大通りが広がっているのもパリの街並みの特徴かもしれない。ちなみにその大通りの一つが歌でも有名なシャンゼリゼ通りだ。実際にパリを訪れてみて、確かにこの景色を明治時代の日本人が見たら自国の発展が遅れていると感じて



も仕方がないよなと思ったりもした。地上はそのような歴史的建造物が立ち並ぶのだが地下ではメトロが走っており結構近代的だ。そしてとても複雑である。どのメトロに乗ればいいのか、この電車であっているのか、など多々迷子になる。まるで東京に来たかのようにであった。慣れてしまえばどうってことないのだろうが観光客にはまずぶち当たる壁であるのではないだろうか。ここでみんなに気をつけてほしいことは地下鉄などの場所ではスリや置き引きが横行しているということだ。路線が分からずおどおどしていたり、スマホで地図ばかり眺めていたりするとすぐに狙われるので気を付けてほしい。幸運なことに私はスリに遭うことは無かったが、日本人の観光客はよく狙われるらしいのでこれでもかというくらいに防犯対策をしていくのが得策であろう。

最後にパリの治安について綴ろうと思う。正直な感想はネットに書いてあるほど治安が悪いわけではなさそうということだ。私自身ネットの評判を見てびくびくしていたのだが、無事スリに遭うこともなく観光を終えられたのでそこまでビビる必要は無さそう。対策するに越したことはないが。ただ、押し売りや、急に荷物を持つとってスーツケースを掴まれたりなどはあったので治安がいいとも言い切れない。こういった場合は強く No と言って立ち去る以外にない。またパリの人々は少し冷たいような気もする。多



数の観光客が毎日のようにやってくるのでいちいち穏やかに接している暇などないのだろう。今私はフランスのニースにいるのだが、ここの人たちは本当に穏やかで温かい人が多い。日本人のような平和ボケした我々はパリよりニースの方が合っているように思う。私はパリではなくニースに来て本当によかったなと改めて感じました。